

地域イベント「みんなの健康フェア」の「年金委員活動」参加で感じたこと！

真夏のような太陽が照りつける9月14日（土）、私たち年金委員会が加盟する地域コミュニティ「浦和東部地区元気アップネットワーク」の開催する「みんなの健康フェア」（浦和駒場体育館）に参加しました。

このイベントは概ね年2回開かれます。今回のイベントの中で展開された種目はブラインドサッカー、ソフトバレー、ボッチャ、トランポリン、デイスコン、テニス、健康相談・測定、年金相談等で、約400人の親子の方々が楽しんでおられました。

ーこの道は いつか来た道 ー

参加した8名の年金委員の役割は、年金機構が進める「地域年金展開事業」として住民の方の日頃の疑問や相談にお答えするとともに、若者に年金知識を広報することです。当日準備したのは、「年金相談コーナーと配布チラシ」です。

チラシは、「知っておきたい年金の話」、「ねんきんネット」、「年金セミナー募集チラシ」等です。

年金相談は、会場が早く動きが多い雰囲気の中で、あらかじめ用意した相談コーナーでの対応は少なく、いわゆる「立ち相談」が中心です。それでも①老齢年金受給要件3件、②老齢年金額1件、③遺族年金3件、④厚年基金1件等でした。年金の課題は、地域の中に埋もれています。



— 年金の課題いろいろ —

年金は人生の縮図と言われます。現役や若い時期の勤務や生活は一人ひとり事情が異なりますが、その違いはその人の年金に反映されます。相談等の中には何故そのような手続きが放置されていたのか不思議に思われることや時折「生活保護があるから」と対応されることもあります。

特に、若者に対しては長い時間軸を基礎とした年金の正しい知識を浸透させることが大切です。「とりわけ年金制度が無くなる」とか「先々年金は貰えなくなる」などのネット等での誤った記述に若者が惑わされたいよう日頃から広報に努めていただくことが重要だと思います。

また、年金委員に「若者への啓もう」を依頼した際、「私はすでに年金をもらっているから関係ない」と対応されることも多くあります。また、受給者から「近くに大学生がいるから話しをしてみたい」と発言され、「循環する世代間の支え合い」の良い見本を体験し、ホットすることもあります。

一年金の地域広報のためには年金の見える化、地域の年金データがあれば具体的に！

現在開示されている年金関係のデータは、加入者数、保険料額、受給権者数、年金支給額等全国ベースのデータがほとんどです。

地域の中で年金を正しく理解してもらうためには年金の地域のデータの見える化すなわち可視化が重要です。そのため、具体的な当該地域の年金データに基づく地域を挙げた広報や活動の取り組みが大切です。

例えば、より身近な地域内の未納率、未納者数、免除率等が分かれば、優先度を決めた上で特定の地域を対象として重点的に活動することから可能となります。

加えて、正しい年金知識の広報には、年金が持っている個と人の生活を支えている力や地域の経済等に大きく貢献している力を示していただきたいのです。

このことにより、年金の持つ「力」を示すことができ、ひいては、現役世代の信頼を得る年金受給者の安心に繋がるものと思います。

令和4年の国民生活基礎調査によれば、公的年金だけで生活している人が44.8%となっており、年金が果たすべき役割は益々大きくなっていくと考えています。

今後も年金委員の活動を年金への信頼につなげるために、こうした年金の基礎的な数字の活用は大きな力になると考えています。